

8. コミュニティ施設「にこぴあ」 (札幌市西区・発寒北商店街振興組合)

～ 子どもから子育て世代、高齢者などが利用する世代間交流施設の誕生 ～

■ 札幌でいちばん住みやすいまちへ

「ハツキタ商店街」と言えば、道内初の「アトム通貨」を始め、子育て世代交流カフェ「ハツキタ茶屋ぎんなん通り」や「ハツキタくらしの安全窓口」の設置など、道内商店街のトップランナーとして走ってきた。

近くには工業団地があり、昔から飲食店を中心に店舗が並び、昭和46年に前身である発寒北商工振興会が設立された。現在の商店街振興組合として法人化したのは、昭和52年と、比較的新しい商店街だ。「さっぽろで一番住みやすいまちへ」を合い言葉に、地域コミュニティの担い手となるべく先進的な活動を展開してきている。

■ コミュニティ施設「にこぴあ」の誕生

これまで商店街では、「ハツキタくらし安全窓口」など地域住民との交流を大事にした活動を行ってきたが、平成25年に店舗跡地に国の補助事業を利用して、デイ・サービス機能等を持ったコミュニティ施設「にこぴあ」をオープンさせた。平成27年には、上記の子育て世代が利用する「ハツキタ茶屋ぎんなん通り」もこの施設に移設し、併設された高齢者住宅の入居者に対して、配食サービスも行っている。また、地元小学校との連携による「ボクマチスクール」もこの施設を活用。



まさしく、子どもから子育て世代、高齢者といった幅広い世代が利用する世代間交流施設として機能している。

ほかにも、組合が入居しているビルの空き店舗を利用してチャレンジショップ「ハツキタ mini マルシェ」を展開。ヒアリング時は2店舗だが、近々すべてが埋まる予定とのこと。このように、



商店街はこれまでの活動が功を奏して、知名度が上がり、新規出店者も増え、現に、平成22年に68名だった組合員が平成27年には驚くことに102名にも増加している。

■ 地域に根付いた「ハツキタくらしの安全窓口」

平成24年にスタートした「ハツキタくらしの安全窓口」は、暮らしに関する相談窓口を組合に一本化したもの。組合がトータルコーディネイトしながら、これらの相談ひとつひとつを、参加する企業に振り分けて対応していくというシステムで、参加企業は21社。家の修理・リフォームから自動車、司法書士と対応できる内容は実に幅広い。4年目を迎え、認知度も高まり、実績も伸びてきている。

このように、ハツキタ商店街は、子どもから高齢者まで、安心して暮らせる「住みやすいまち」づくりに向け、着実に歩みを進めている。

照会先
(運営主体等)

■発寒北商店街振興組合 (Tel 011-663-8541)
札幌市西区発寒12条3丁目4-13
HP (<http://hatsukita.jp>)